



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 若年社員のワークハラスメント

5

僕（B君、25歳）は今、女性社員の多い部署にいます。直属の上司である課長は男性ですが、部長は女性で、周りの同僚も僕より年配の、30代、40代の女性が多いのです。この部署に20代の男性が配属されることは少なく、僕がこの部署に配属されたときは珍しがられました。そのせいか、何かにつけて「かわいい」と言われたのです。褒めてもらっていたのかもしれませんが、あまり嬉しくはあり  
10  
ませんでした。仕事で少しでもミスがあると、「取り柄は顔だけ？」とか、「かわいくて許してもらえるのは、若いうちだけだからね。」と言われます。次第に子ども扱いされているとしか思えなくなりました。

そして、とにかく力仕事は何でも僕に回ってきます。平均的に男性の方が女性よりも腕力は強いでしょうから、最初は仕方ないかなと思っていました。でもある日、販促グッズが大量に届いた時、僕一人で大きな段ボール箱を何箱も移動させられました。このグッズの企画担当の先輩（女性）は知らん顔を  
15  
決め込み、同じ部署の他の同僚も、「あなた男なんだから、これくらい平気でしょ。」と言って手伝ってくれませんでした。

配属後、半年くらい経った頃でしょうか。新しい仕事の企画のために一人で残業していました。そこへ会議から戻った部長が僕を見つけ、「B君、今日はもう切り上げたら？ お腹空いてるでしょう。ご飯行こう。」と、珍しく夕食に誘ってくれたのです。普段は部下に対してとても厳しいことでよく知られた部  
20  
長です。こんな風に優しく声をかけられたのは初めてでした。僕の仕事を認めてくれているのかなと、嬉しくなりました。企画を上に通し易くするためにも、部長にあらかじめアイデアを話しておきたいという気持ちもありました。そこで、一緒に食事に行くことにしました。

連れて行かれたお店は会社の近くにある人気のスペイン風バルで、その夜もとても混んでいました。角の狭い席しか空いておらず、そこに通されました。ほどなく部長はワインと料理を注文し、僕もいくつ  
25  
か小皿料理を選びました。料理を待つ間、ワインを飲みながら仕事からみの会話が続けました。仕事には慣れたかとか、企画書はどの程度進んでいるか、などです。しかし、少し酔いが回ってくると、部長が僕の肩を触ったり手を握ったりしてきました。僕はびっくりしました。周りの人に見られて誤解されはし

.....  
このケースは慶應義塾大学ビジネス・スクール准教授 山尾佐智子がクラス討議の資料として作成した。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学  
30  
ビジネス・スクールまで（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は <http://www.bookpark.ne.jp/kbs/> から。

Copyright © 山尾佐智子（2020年6月作成）